

令和8年度 学校関係者評価委員会における委員の意見及び本学の認識・対応方針

評価分野	委員の意見	本学の認識・対応方針
2 学校運営	【神谷委員】 東海学院大学では学生生活委員会を設置し、奨学金制度、学生の健康の維持、パワハラ、アルバイト、部活、課外活動、障がい者サポート等学生生活のサポートをしている。国際園芸アカデミーでも学生生活委員会の立ち上げを検討する予定はないか。	・学生支援の更なる充実に向けて、学生生活委員会の立ち上げも視野に入れながら、支援体制について、学内で検討させていただきます。
4 学修成果・教育成果	【小栗委員】 資格の取得に関し、技術も大事だが、経営も大事。簿記の授業の最終目標を日商簿記二級とか三級の取得と定めた方が効果が上がると思うが如何か。	・学生については技術資格の取得を重視しておりますが、将来の経営を担う人材育成に向け、財務諸表の理解やコスト意識の醸成にも取り組んでおります。 ・今後は日商簿記の資格取得も含め、教員と協議しながら、教育内容の一層の充実に努めてまいります。
	【神谷委員】 G P Aの平均から大きく離れた学生にはどのように指導されているか。	・人数は少ないのですが、G P Aが平均から大きく下回る学生については、補講を行うなど、教職員が情報共有を図りながら、一丸となってフォローしております。
	【神谷委員】 進路についての情報は卒業時のアンケート等で収集しているのか。	・アンケートは卒業時、卒業1年後・3年後に行っており、学生のうちに学んでおけばよかったこと、今の生活状況についても質問しております。学生が少ないので、担当の教員が直接聞きとりしています。また、転職についての相談も直接教員が受けています。
5 学生支援	【工藤委員】 県職員はハラスメントの防止に向け県独自に教育、研修を行っているが、アカデミーの教員は県の研修を受けられないため、県職員と教員の間で情報共有して、ハラスメント防止対策を進める必要があるのではないか。	・教員には総務課長が県の研修資料を用いながらハラスメントの注意喚起等を行っているとともに、学生に対してはキャリアデザイン授業の中でも教えています。これからも十分留意しながら進めていきます。
	【水野委員】 最近多様な学生が入学しており、教員も様々な相談を受ける中で、サポート体制に関わる予算措置や人員についてお尋ねしたい。また、学生の相談内容について具体的に教えてほしい。 高校でも、精神的な悩み、友達とのコミュニケーションについての悩みは、教員だけでの対応は難しい。学生生活の充実のためにも教員の働き方改革やサポートについて予算措置を検討していただきたい。	・通常は学年主任の教員が対応します。1年の後期からは専攻に分かれるので、専攻の教員が相談先になります。その他精神的なことは校医や、月1回学校に招いているスクールカウンセラーに相談対応してもらっています。 ・学生からの相談内容については、学生会の役員のこと、学生間の悩み、進路、アルバイトと学業のバランス等様々なものがあります。 ・学生サポートの向上に向け、必要な措置については予算等も含めて前向きに検討させていただきます。

	【神谷委員】 学生生活の満足度調査をやってはいかがいか。通学時間、人間関係の悩み、パワハラ、落ち着ける場所、アルバイト、予習復習の時間等、把握することができる。	・これまでの学生アンケートに学生生活の満足度を加えるなど、様々な機会を利用して学生の考えや悩み等の情報を拾うよう努めていきます。
	【小笠原委員】 同窓会名簿を作りなおそうと思っている。一期生は卒業後20年近く過ぎていて、電話番号もメールアドレスもわからなくなっている。協力して卒業生のネットワークを強化していきたい。協力してほしい。	・同窓会は卒業生のネットワーク維持や学校支援の面で重要な役割を担っていただいていることから、個人情報保護に配慮しながら、できる範囲で協力を努めてまいります。
6 教育環境	【水野委員】 ぎふワールド・ローズガーデンの実践教育フィールドは、一般のお客様の声や反応を直接聞ける貴重な教育の場だと思う。具体的な取組や一般客の反応と今後の活用法を教えてほしい。	・作品展示を花トピアで行っており、意見箱を設置して一般客の声を集めております。 ・生産コースでは4月と10月の販売実習で、対面販売を行っており、商品企画から販売、分析までの一連の流れを理解するとともに、一般客と直接触れ合う経験が学生の学びにつながっています。 ・実習フィールドで行う卒業制作の庭造りにおいても、制作時の一般客との交流を通じてコミュニケーション能力を養う機会となっています。 ・今後も一般客と対面で交流する機会の増加など、教員と協議しながら教育効果が高まるよう進めていきます。
7 学生の受け入れ募集	【神谷委員】 高等教育機関の進学者が増えており、いろんな多様性を持った人が入学される。障がいを持った方、社会人の方で学びなおしをしたい方、再就職希望の方、定年された方など新しい生活を求めているような方々が増えてくると思われる。そのような方の受け入れはどうなっているか。 また、素晴らしい施設を持っているので定員を増やしてもらいたい。	・今年の学生では、大学卒業者や、通信制学校出身者など多様な方々を受け入れています。5月の学校見学会に70歳代の方も参加されるなど、多様な年代の方からも関心をいただいているおり、本校で学びたいと思われる方は幅広く受け入れていきたいと考えています。 ・定員についてはアカデミーの規則や県の条例を変えなければならないので、すぐに増やすことはできませんが、施設が許す限り2から3名は定員より多めに受け入れたいと考えています。
8 教育の内部質保証システム	【小栗委員】 「教育活動に関する情報公開」についてはすばらしい。ホームページのトピックス、ブログ等リアルタイムにかつたくさん公開されている。これほど公開されている学校は他にはないのではないかと。是非続けてほしい。	・家族の方から学生の様子が良く分かれると評価いただいています。教員も多忙ではありますが、国際園芸アカデミーを多くの方に知ってもらうため、リアルタイムでの、トピックス、ブログの発信に努めております。
11 国際交流	【小栗委員】 「学習成果が国内外で評価される取組を行っているか」については海外との実績が結構あると思う。もっと高い評価をしてもよいのではないかと。	・国際交流計画に基づき、海外の教育機関との相互交流や学習成果（英訳）の情報発信を行っておりますが、新たな取り組みであることから、今後、事業の成果を継続的に確認しながら、その実績を踏まえて適切に評価していきます。

全体と通した意見交換	【神谷委員】 国際園芸アカデミーも歴史を重ね、たくさん卒業生も送り出されている。ガイドブックに沿革を入れられたらどうか。	・来年度のガイドブックから沿革を掲載させていただきます。
	【柿本委員】 ホームページの卒業生相談窓口への問い合わせが少ないとのことだが、公式LINEを活用したらどうか。自身の生花店では問い合わせのほとんどがLINEとなっている。公式LINEに誘導するとよいと思う。今の10代の主要SNSはTikTokなので、Instagramと同じ内容をTikTokでもシェアされたらどうか。	・公式LINEの活用について検討していきます。現在、情報発信についてはホームページ、Facebook、Instagramを活用していますが、若年層へのアプローチとしてTikTokも検討してまいります。
	【久保委員】 子供がアカデミーにとっても楽しく通っており、学園祭のチラシも家に持ってきたので、近所に配った。学園祭などの行事は広報誌やLINEでの掲載を考えたらどうか。	・学園祭は学生会が主催しているため、学生会と連携して検討を進めていきます。普段アカデミーに縁のない方にも学園祭をはじめとするアカデミーの活動を知ってもらえるようPR方法を検討してまいります。